（2） 令和6年度　学校自己評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立田野浦小学校　　校番（　6　）

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション（自校の使命）】　自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン（自校の将来像）】　児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。

評価計画					自己評価						改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	コメント
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・対話的で深い学びを生み出す発問構成の工夫 ・ドリルタイムと読み上げ計算による基礎学力の定着 ・ICTの活用	【各種学力調査】 ①単元末テスト（算数）の正答率　85% ②全国学力・学習状況調査の正答率、全国平均以上　100% ③NRT（学力テスト）の正答率、全国平均以上　100% 【児童アンケート】 ①「算数の授業が楽しい」 85% ②「算数の授業がよく分かる」 85%	85% 【100%】	85% 【96%】	84% 【96%】	99% 【96%】	B	【各種学力調査】 ①知識・技能87%　思考・判断・表現79% ②国語66（対全国比-1.8）97% 算数60（対全国比-3.6）94% ③国語47.4（対全国比-2.6）95% 算数48.2（対全国比-1.8）96% 理科47.4（対全国比-2.6）95% 【児童アンケート】 ①83%　②85% ○児童アンケートの結果は前期より肯定的回答の割合が下がったが、昨年度と比較すると年間を通して肯定的回答の割合が増加した。	○基本的な学力の向上に向けて以下の取組を継続して行う。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり ・ICT機器の効果的な活用 ・ドリルタイムと読み上げ算による学習事項の定着の徹底 ・「放課後学習」の実施 ・学び合いの言葉を用いた授業づくり ○全国学力学習状況調査の結果分析を反映させた授業づくり、5・6年生の計画的補充学習を実施する。 ○12月実施のNRT（学力テスト）に向けて、計画的な補充を行う。	○			○学習規律は徹底してできている。 ○学力向上に向けた取組が着実にできている。 ●教職員の取組へのこだわりを高める必要がある。
			○学習規律の徹底（4月中に達成） ・チャイムの順守 ・学習環境の整備（机の上、筆箱） ・返事の定着（名前を呼ばれたら「はい」）	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」	95%	95%	95%	100%	A	【児童アンケート】 ①96% ②93% ③95% ○前期から大きな変化は無かったが、数年間継続して取り組んできた成果が出ていると考えられる。 ●机上の整理や身の回りの整理・整頓について、個別の対応が行き届かなかった。	○学習規律の重点取組項目と期間を設定し、全校で統一した指導を行うとともに、取組期間以外にも継続して取り組む。 ○年度始めに教員間、教員と児童間で確認を行い、当たり前となっている学習規律の継続と共に、水準を上げていく。 ○達成できていない項目は個別対応等を丁寧に行っていく。				
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣を身に付けさせる。	完全不登校の根絶	○不登校の未然防止 ・年に2回実施するQ-Uを基に、構成的グループエンカウンターの計画的な実施 ・全職員による児童実態の連携実施 ・関係機関との協働的な連携実施	①不登校児童、9月末7人以下。1月末13人以下。 ②「学級生活満足群」に属する児童の割合　65%以上。 「学級生活不満足群」に属する児童の割合　8%以下。 「要支援群」に属する児童の割合2%以下。	85%	87%	84%	99%	B	①昨年度13名（1月末）　今年度19名（1月末） ②学級生活満足群　61.3%　→　74.2% 学級生活不満足群　9.7%　→　7.3% 要支援群　0.7%　→　0.5% ○学校生活に満足している児童の割合が増加した。 ○登校しにくい児童の中には、SRや保健室なら登校できる児童もいる。 ●不登校児童19名中5名は、SRへ登校することも難しい実態がある。そのうち1名は、オンライン授業で繋がりを継続している。	○12月に学校生活不満足群や要支援群に属する児童を抽出し、アンケート結果から要因分析を行った。その要因分析をもとに、集団づくりについてK-13法を用いて、取組を決定・実践している。その取組を学年で再度見直したり、構成的グループエンカウンターについての計画表を再考したりすることで、見通しをもった集団づくりを行う。 ○不登校児童の減少に向け、不登校対策委員会において、SRや心の相談室、スクールS、SSW等と連携するとともに、電話連絡や定期的な家庭訪問により、学校とのつながりを継続する。	○			○学級満足群の大幅な向上に見られるように、学校全体に集団づくりに取り組まれた成果がでている。 ○課題のある児童にとっての居場所づくり、集団づくりについて、共通意識をもって実践することが重要であるため、継続的にに行っていただきたい。
			○挨拶あふれる学校づくり ・児童会役員による挨拶運動の実施 ・挨拶目標づくり、挨拶週間の実施、振り返り（学期に一回）	【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】 ①「相手を意識した挨拶ができていますか。」	85%	80%	88%	104%	A	【児童・保護者・教職員アンケート】 ①88.1%（児童90.2%・保護者78.7%・教職員95.5%） ○教職員主体の「あいさつマンになろう」の取組を通して、相手を意識した挨拶が広がった。 ○「掃除時間には会釈をする」、「廊下では声の大きさを考える」などTPOに応じた挨拶も意識し始めた。地域の人から「挨拶の声や態度が良い」と連絡を受けた児童もいる。 ●取組が終わると、教職員の声かけが減少し、児童の意欲も下がってしまう。 ●来校者に対して、挨拶ができない児童がいる。	○学校全体でタイムリーに指導できるように、生徒指導部会を定期的に開催し、児童の実態を交流することを通して、挨拶啓発の取組を集団決定する。 ○挨拶啓発に向けた取組実施期間以外にも、全校放送を活用し、児童の姿を評価し、地域や来校者など、相手を意識した挨拶実施への意欲向上を図る。 ○参観日を活用し、取組について保護者への啓発を行う。				
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と11月の長座体前屈計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①県及び全国平均値以上　75%以上	75%	53%	66%	88%	B	【長座体前屈】 ①4月46.9%、7月53.4%、11月65.7%（昨年度11月59.3%） ○目標値には届かなかったが、前年度比＋6.3%となった。 ○柔軟性に課題のある児童の分析・追跡調査を行い、月1回集まって、記録が伸びたことを誉め合い、意欲を高めた。 ●柔軟性に課題がある児童が固定化していること、教員の指導の差に課題が見られる。	○柔軟性の向上に効果的な（ペア）ストレッチの研修を行った。その内容を授業で児童に還元するとともに、方法を紹介したスライドを作成し、いつでも使えるようにしておく。 ○6年間の体力向上の取組の記録カードを作成した。自分の頑張りを確認させるとともに、次年度への目標を持たせる。	○			○ペアでのストレッチトレーニングはとてもよいことである。毎日取り組めることを期待する。 ○体力向上に向け、児童の意欲を引き出し、成果がでている。
			○病気や感染症予防に対する行動の向上 ・ハンカチ持参の強化週間を設定 ・ICTを活用した手洗い方法の指導 ・授業や各種便りを活用した啓発	【ハンカチ点検】 ①ハンカチ持参率　90%以上 【児童意識調査の肯定的評価】 ①手洗い実施、ハンカチ持参に 関する肯定的評価　90%以上	90%	91%	93%	102%	A	【ハンカチ点検】 ①91.6%（前期）　→　93.9%（後期） 【児童アンケート】 ①96.3%（前期）　→　94.8%（後期） ○懇談会での啓発を続けたことで、児童・保護者の意識が高まっているように思える。	○ハンカチ持参とともに、ランドセルに予備を入れておくことを、参観日等で保護者に啓発していく。 ○固定化している児童には担任から連絡する。				
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	○時間外勤務月45時間以内を完全実施 ・月間勤務時間合計の確認、助言 ・行事、事務作業の計画、精選 ・教材の共有化	【超過勤務　月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①「現在、生き甲斐や行き甲斐を感じることができている。」	90%	82%	85%	94%	B	【超過勤務　月45時間以内】 ①83.5% ○11月以降、提出物等を早目に周知し、学年単位で計画的に行うことで、時間外在校時間が45時間以内の職員が96.2%となった。 ●目標値には及ばなかったが、職員が協働的に行動し、職員室の心理的安全性が保たれている中での、業務が行われている。 【教職員アンケート】 ①86.4% ○学習指導、生徒指導、学級経営について、ほとんどの教職員が適切に指導できている。	○次年度も年間計画を明確にし、早期の周知、学年団での協働、風通しの良い職員室について教職員が一丸となって取り組む。 ○職員の状況を準衛生委員会等で丁寧に把握・共有するとともに、個別に生き甲斐や行き甲斐についての相談体制を作る。	○			○働き方改革の意義を教職員が理解し、成果が出ている。 ○現状が理解できた。今後の教職員の協和性が多野垂れることを期待する。
			○地域に信頼される学校づくり ・年間計画及び、時期に応じた服務研修実施 ・1年に2回、保護者・児童アンケート実施	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」	95%	96%	96%	101%	A	【児童アンケート】①95.6%　【保護者アンケート】96.8% ○服務研修は計画的に実行できている。 ○達成感や自己肯定感を高めることができるよう、各行事や授業等で教職員が積極的に声かけを行った。。 ○生徒指導上の問題が起きたときや気になる事案がある際には、組織的にその日のうちに解決することを念頭に置き、家庭とも連携を図れている。 ●4.4%の児童が、学校に対して不安や不満な気持ちを持っている。 ●HPの更新が少ないとの意見がある。	○学校に対する不安な気持ちを持っている児童の実態把握を行い、その児童や学級集団への適切な取組を年度末に向けて組織的に行う。 ○「すぐーる」を活用したりして、学年の授業内容等を配信していく。	○			○保護者アンケートの結果が非常に高く、日々の取組の成果が表れている。 ●「学校の信頼は子どもの姿の発信です」これを基本に学級便りを増やすことを意識していただきたい。

本年度の重点目標については◎印で示す

【ｊ：自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００

【Ｉ：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。